



# 学校だより

令和3年4月7日  
横浜市立南本宿小学校  
校長 西尾 琢郎  
No. 543

## 暮らしと学びの復興をめざして

校長 西尾 琢郎

令和3年度がスタートしました。学校にとっての4月は、さまざまなものごとが新しいスタートを切る、いわば元旦のようなものです。今年度は、例年に比べても多くの職員が新たに南本小の一員となり、スタッフ全員が気持ちも新たに、子どもたちと新学年での生活をスタートさせることに胸ときめかせています。

その一方で、昨年度から引き続き向き合い続けていくことになる大きな課題もあります。言うまでもない、新型コロナ対策です。昨年の春は新年度早々、始業式と入学式を行ったのみで、休校や分散登校といった大きな負担を、子どもたちやご家庭に強いることとなってしまいました。いわゆる「第1波」と言われた昨春に比べて、数字で見る今春の状況は明らかに悪いと言えますが、それでもこうして年度のスタートを切ることができるのは、この1年間で、見えざる敵の姿が、少しずつですが明らかになり、その対策のあり方も見えてきたからだと言えるでしょう。にも関わらず、数字的にはなかなか改善が進まない背景には、まだまだ社会全体が、感染対策を織り込んだ「新しい日常」への適応を十分に果たすことができていないという面があるのではないかと感じています。

学校でも、当初は「いつか元の姿に」という希望や願いが色濃くありました。しかしこの状況が2年目に入ろうという今、私たちは変化を前向きに受け入れることや、さらには変化を能動的に生み出していくことの必要性を感じるようになりました。それは震災などの大規模災害からの立ち直りが「復旧」ではなく「復興」を目指すべきだと言われることと通じるものがあります。旧に復することを目指すのでは、いつか来る同じような被害を防ぐことはできません。より強くしなやかな力を生み出すことができこそ、苦難の先の光を見出すことができるのです。

昨年度、初めて改めた本校の学校教育目標「南本小の子 とともに明日をつくる子 楽しみ学び続ける子」には、まさにそうした力を、子どもたちの中に育てていきたいという強い願いを込めました。社会はもっとよいものにすることができる。それも、自分たち自身の行動で。そのために、いつでも、どこでも、いつまでも学び続けていきたいと心底願い、行動する人になってもらいたい。それが本校の教育のめあてです。SDGsも、ICTも、そのための教育活動の中で、本当の価値をもつものにしていかなくはなりません。

現在急速に流行が拡大しつつあると報じられている「変異ウイルス」の中には、これまでのものと違い、子どもたちにも感染しやすい性質をもったものがあると言われていています。その意味で、学校でも感染予防には一層の注意を払っていきますが、それは新しい何かをするというよりも、これまで絶えず継続してきた対策を、より徹底して、引き続き行っていくという愚直な取り組みの積み重ねです。

保護者のみなさま、地域のみなさまにおかれましても、「自粛疲れ」ではなく、日々を大切にするという暮らしぶりの中に、感染予防のための習慣をよりしっかりと組み入れていただくという意識で、子どもたちや、ひいては地域の健康と安全を守っていただけたらと願っております。今年度も本校の教育活動へ、引き続きのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

